「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫
▼▲▼
◇◆◇　No.0771　◇◆◇　　24/01/10

【 ドル/円は 3 年連続の大変動へ、1 月相場は円高有利だが･･･ 】

お屠蘇気分が早々に吹き飛んだ大変な年明けとなりましたが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。皆様にとって、良い一年でありますように。

ドル/円相場は昨年 8-11 月の月間変動が平均 5.2 円。決して小さくはないものの、それまで 1 年以上にわたり「月間変動 8 円以上」を記録していただけに、当レターでもそののち「大相場の連続がいよいよ終わりを迎えた」ーーなどとレポートしていた。しかし、年末 12 月は 5 ヵ月ぶりの大変動で、月間変動幅は 8.08 円。ヒョッとすると、再び「大相場」へと回帰した可能性もあり、いち参加者として 2024 年相場にも期待せずにはいられない。ドル/円は 3 年連続の大変動達成も!?
さて、そうした環境下、今回の当レターでは月初恒例である経験則から見た「月間見通し」をレポートする。

◎1 月相場、3 年連続で「年間ドル底値」示現の展開

まずは、1 月相場の戦績について、1990 年以降昨年まで過去 34 年間を振り返った場合、勝率は 14 勝 20 敗となっている。
上記の数値だけを見ると、6 割弱と極端に偏っているわけではないが、興味深いのは比較的近年はドル安・円高が有利であるということだろう。実際、2014 年以降という過去 10 年だけに限定すれば、ドル高・円安方向に振れたのは 2016 年と 2021 年しかなく、残りの 8 回はすべてドル安・円高に振れている。つまり、勝率はなんと 8 割だ。今年は、昨年末まで大勢を占めていた「日米金利差縮小」観測が年明け以降後退したこともあり、ここまでドル高・円安がやや有利。しかし、経験則を信じるならば、こうした流れは月末まで続かない可能性が高いのかもしれない。

そんな 1 月相場には、ほかにも幾つかの特徴があるのだが、なかでも興味深いものとなると、以下の 3 つだろう。ひとつずつ順を追って説明していく。

最初に取り上げるのは、「月間を通した値動きが両極端である」ことで、動く年はかなり激しい価格変動を記録するものの、逆に動かない年はピタリとベタ凪状態が続くことも少なくない。前者の「よく動く 1 月相場」については、年明け早々の 3 日に、いわゆる「フラッシュクラッシュ」と呼ばれるドルの暴落を演じた 2019 年が思い起こされる。事実、2019 年の 1 月相場は変動幅 5.90 円で年間 1 位の変動を記録していた。
しかしその一方、2022 年は全体を通してみれば歴史に残る大相場で非常にアクティブに動いたものの、1 月相場だけに限れば変動はわずか 2.88 円。年間 11 位の変動に沈んでいる。今年は果たして「動く」or「動かない」、どちらの展開をたどるのか要注目だ。

次に、一年 12 ヵ月を比べて見た場合、不思議なことにドル/円相場は年明け早々の「1 月に一年の天底をつける」ケースが非常に多い。
事実、1990 年以降昨年までの 34 年間で 15 回の「年間天底」を記録していた。確率にすると、約 45%というかなりの高確率になる。実際に比較的喫緊の事例だけを取り上げても、2016 年と 2017 年は 1 月に年間のドル最高値を示現しているほか、2013 年と、2019 年そして 2021 年から昨 2023 年までは 3 年連続で逆に 1 月安値が結局年間を通したドル最安値となっていた。もちろん、毎年必ず起こる事象ということではないものの、今年についても一応注意しておきたいところだ。

最後 3 つ目の特徴は、「1 月の月足陰陽と、年足陰陽が同じになる確率が高い」ーーことになる。1 月の月足が陽線であれば、その年一年間は年間を通してドル高・円安に振れる公算が高く、実際に年足も陽線引けとなるわけだ。
ちなみに、こちらについても 1990 年以降昨年まで過去 34 年間の戦績を調べてみると 21 勝 13 敗だった。昨年は、1 月が陰線となったにもかかわらず、年間は実体部が 10 円近い長大陽線。大きくドル高が進行するという、残念ながら経験則に当てはまらなかった。しかし、引き続き飽くまで参考程度として、今年も頭の片隅に留めておいて損はない気がしている。（了）

FX newsletter

▼▲
当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright （C） fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter